

平成 19 年 4 月 8 日

平成 18 年度学芸員等在外派遣研修実施報告書

平成 18 年度学芸員等在外派遣研修の実施結果について、下記のとおり報告します。

1 研修テーマ

英国の博物館等における文化財の保存・修復・活用について

2 研修期間

平成 18 年 1 月 15 日～平成 19 年 3 月 9 日

3 研修概要

(1) 研修先の名称

大英図書館 ほか

(2) 研修の内容

大英図書館をはじめ、英国内に所在する博物館、図書館などの保存修復施設を視察した。また、英国には数校しかない、修復技術者養成課程を有するノーザンブリア大学を視察し教員や学生とディスカッションを行った。

さらに、100 を超える博物館等において、保存修復の観点から、修復の終わった文化財の状態や、保存に配慮した展示状況について視察した。

(3) 研修の成果

英国は、イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランド

の連合国家であり、それぞれに異なる歴史的背景や文化を有している。今回の研修では、これらを総合的に視察し、さまざまな地域性の中で性格の異なる博物館等において、それぞれの状況に応じた保存と修復を実践していることを視察し、関係者から情報収集することができた。

① 大英図書館 The British Library

大英図書館は1973年に設立された国立図書館であり、大英博物館内のほか数カ所に分散していたが、1997年にロンドンのセント・パンクラス駅隣に新館が開館した。

そのコレクションは1753年に創設された大英博物館に所蔵されていた書物を母体としている。蔵書は1200万冊にもおよび世界有数の印刷本、写本のコレクションを含んでいて、3千年の歴史的広がり、世界のすべての大陸から集められた地理的な広がりを有している。

蔵書を保管する書庫は、広大な面積を有していて、敦煌からもたらされたスタインコレクションなどは特別な貴重書用の書庫に納められている。分野別に分かれた11の閲覧室では、申請が認められれば貴重書の閲覧をすることも可能である。館内には貴重書を展示する本格的なギャラリーも併設されており、博物館的な機能も有している。

また、館内には図書および紙を修復するスタジオが存在していて、修復の専門知識と技術を有した約70人の専属スタッフが働いている。これらのスタジオでは6～8人のインターンを受け入れるなど、技術者の育成にも貢献している。なお、図書の修復スタジオは、同じ敷地内に新しい施設の建設がほぼ完了し、旧のスタジオからの移転が開始された。

①-1 紙修復スタジオ

本館の6階にあり、図書修復スタジオが新館へ移れば、本館の中で場所を拡大する予定である。紙修復に関わるスタッフは約20人。

ここでは、本の形になっていないさまざまな紙文化財が修理されている。なかでも、敦煌経やチベットの経典などの極めて貴重な文化財の修理も行われている。

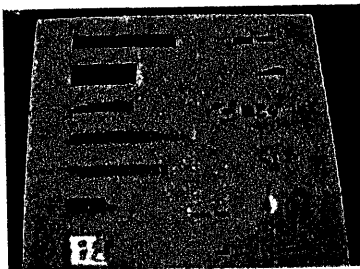
修復中の敦煌経のうち咸通九年（868）の刊記がある版本・金剛般若波羅蜜経を間近に見ながら修理方針等について意見交換をすることができた。本経は、版本としては極めて古く、首尾と見返し絵まで現存している貴重なものである。しかし、過去に施された修理で使われた接着剤などの影響により、波打ったまま固まったような危険な状態にある。修理については、慎重を期して、着手して数年に及ぶが、いまだに処置は施さずに方針を検討しているということであった。

また、様々な形態の文化財を安全に保管するために、各種のホルダーが考

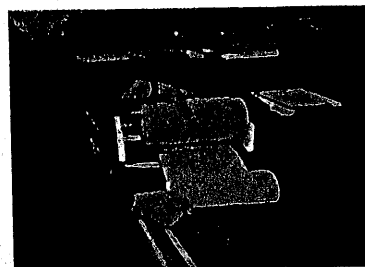
案されていて、参考になった。



1 紙修復スタジオ



2 チベット経典収納状況



3 巻物の収納状況

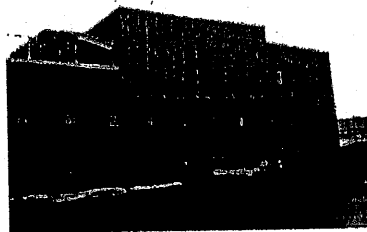
①-2 新図書修復スタジオ

図書館と同じ敷地内に新しい図書修復スタジオが独立した建物として建設中であった。3年前から計画が始まり、2005年8月18日に着工した。

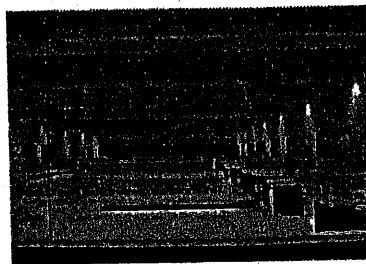
建物は、視察した時点ではほぼ完成し、内装工事などが行われていた。1月末からは図書修理部門の職員約40人が本館6階の現スタジオから移動する予定であった。

間仕切りの無い大空間に設けられたスタジオには大きめの作業机が並べられている。天井には大きな窓が設置されて、豊富な外光を取り入れることができる。また、内壁に設置された窓を通して見学できるようにもなっている。

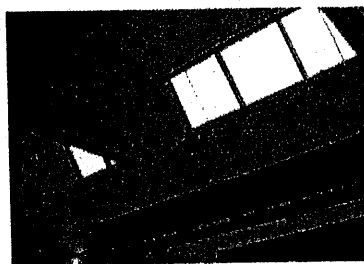
建物のエントランスには小規模ではあるが、展示スペースも設けられている。



4 新図書修復スタジオ外観



5 スタジオ全景



6 スタジオ天井窓

①-3 書庫

書架の総延長は274kmに及ぶ長大なものである。地下書庫は地下24mまで達している。

通常の図書の出納はトレイに入れてレールに載せ、自動的に運ばれるシステムになっている。

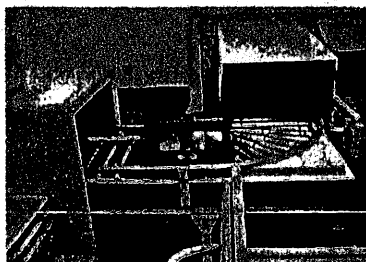
地下1階にはエアコンなどの機械専用フロアになっている。

敦煌経は地下2階の貴重書室に配架され、特別の書架に納められている。この部屋は特別仕様になっていて、ダブルシャッターや水

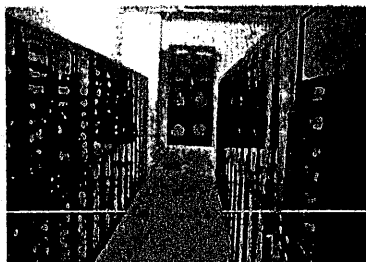
を使わない消火装置が備えられている。

このほか、本が濡れた時にマイナス24度でフリーズドライする装置も備えられている。

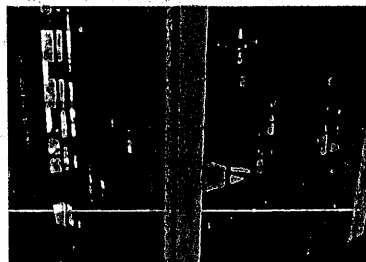
また、エントランスホールにはジョージ3世の蔵書を保管する王立文庫がタワーのようにそびえ立っている。



7 図書出納システム



8 貴重書書庫



9 王立文庫

① 一4 閲覧室

閲覧室では保存修理を終えた敦煌経3巻を閲覧した。敦煌経の閲覧に際しては、1ヵ月ほど前に中国図書部門へ申し込んで審査を受ける必要がある。今回は6点の閲覧を申し込んだ中で、修理中、あるいは保存上問題があるという理由で3点は閲覧が叶わなかった。

閲覧できた3点は

- 1 大般若波羅蜜多経巻第一 1巻
- 2 大寶積経巻第一百一十七 1巻
- 3 大般涅槃経巻第十 1巻

の3巻である。閲覧に際しては、一巻ずつを借り出して閲覧室の特別席でのみ閲覧することができる。いずれも紙箱に収納されている。また、軸を欠く3は、保存上の処置であるのか、巻尾を外にして巻いてあった。いずれも極めて保存状態が良かった。

このほか、日本の古典籍3点も閲覧した。

- 4 金剛頂大教王経 3帖
- 5 聲字実相義 1帖
- 6 摩訶止観 6帖

である。これらも極めて保存状態がよく、元々状態が良いか、修理の行き届いたものしか閲覧を許さないという方針と受け取れた。

なお、日本の古典籍は当日に申請しても2時間ほど待てば閲覧可能である。

② 大英博物館 The British Museum

大英博物館は、250年以上前に国王ジョージ2世に遺贈されたハンズ・スローン卿のコレクションに始まる。コレクションの内容は広く世界各地の文

化・文明に関するものを含んでいる。

修復部門は、約100名のスタッフを抱え、専用の図書室まである。さまざまな材質別に部門が設けられているが、絵画や書跡等については、東洋部門が独立している。これは、絵画などの鑑賞や保管のかたちが西洋と東洋では大きく異なるため、修理技術も異なるためであろう。

各分野の修理予定品には、学芸員、保管担当者、修理者の三者がサインしたカードがついて、スタジオへまわってくる。修理はこの三者の合意があって成り立つものとされている。

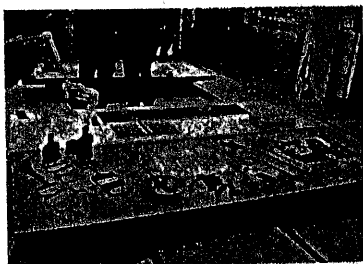
修理に関する写真、図面、薬品リスト、X線写真などの情報はパソコンで検索して、入手することができる。

なお、大英図書館は元々、大英博物館の図書部門が独立したものである。研修では、各分野にわたる修理スタジオを視察することができた。

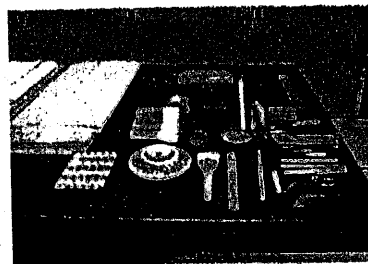
②-1 ヒラヤマスタジオ

東は日本から西はインドを含む東洋の絵画や書跡の修理を行っている。スタッフは室長1名と中国絵画・書跡を修理するスタッフ2名である。中国のものは、朱漆塗りの立ち作業をする台を用いている。日本のものは、畳に座って作業する高さの盤板を用いており、同じ東洋の文化財修理でもそれぞれの伝統を尊重した方法が採用されている。

また、朝8時30分から、希望する館職員を集めて修理技術や道具などを見学できる日を設けていた。この日は、作業台や壁に修理中の作品や道具・材料を並べ、修理工程を示すポスターを張り出している。また、コーヒーとクッキーを用意して軽い朝食を採ってから見学できるようにしている。修理スタッフだけでも100名ほどを抱えている大所帯なので、ほかの職場について知る機会は少ないらしく、見学者は2時間近く見学を続けていた。



10 展示中の作品と道具
(日本式)



11 展示中の道具と紙
(中国式)



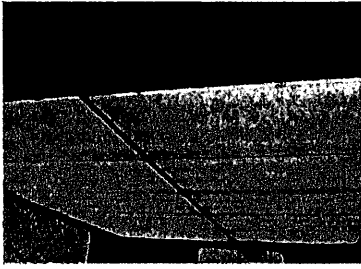
12 熱心に見学する館職員

②-2 金属製品の修理スタジオ

各スタジオでは館所蔵品の修理が行われているが、貨幣については全国から出土品が集められ、無償で保存処理が行われている。

スタジオでは、紀元前700年のエジプトの女人像や金属板を埋め込んだ漆

器の修理が行われていた。



13 天井全面のライト



14 保存処理中の古代貨幣



15 保存処理中の女人像

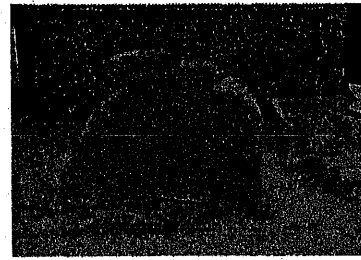
②-2 陶磁器とガラスの修理スタジオ

陶磁器は欠失部に石膏を埋めてから色つけを行っていた。本体の内形および外形と同寸の型を作り、間に石膏を流し込んで本体と同じ厚さと形状のものを作り、それを分解して本体を補っている。

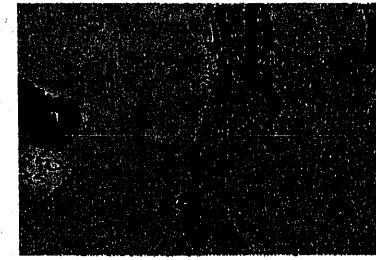
ガラスの修復には、ドイツで考案された割れたガラスを仮繋ぎするピンを使用していた。



16 修理中の土器



17 欠失部補填用の石膏



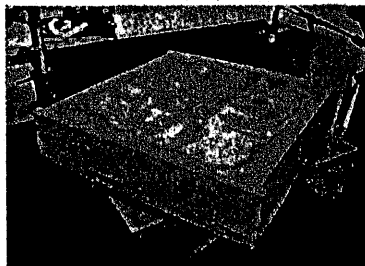
18 保存処理中のガラス製品

②-3 壁画修理スタジオ

壁画の泥を落とし、アクリル樹脂で剥落止めを行う。壁画の裏側はエポキシを3回入れて固定する。

②-4 石造物修理スタジオ

レーザー光線で表面の汚れを除去している。以前はスチーム・クリーナーを使っていたが、レーザーだと砂岩のような弱い石でも危険が少ないそうである。また、このスタジオではレプリカ作製も行われている。



19 修理中の壁画



20 修理中の石造物

③ ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館 Victoria and Albert Museum
アルバート公の後援を受け、1852年マールボロ・ハウスに産業博物館として開館した。1857年には現在の所在地であるサウス・ケンジントンに移り、1899年にヴィクトリア・アンド・アルバート博物館に改称した。

世界のさまざまな地域の芸術的な工芸品から工業製品に至るまでを収集・展示している。

③-1 紙文化財修理スタジオ

博物館本館内に設置されている。世界各地の紙文化財の修理を受け持っている。修復材料に用いる紙などが工夫を凝らして収納されている。

仮張りや刷毛など、日本の伝統的な修理道具も積極的に取り入れられている。



21 修理スタジオ



22 修理用品収納具

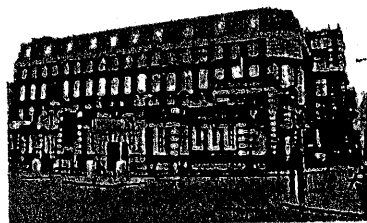


23 日本製刷毛

③-2 マゼランプロジェクト

博物館本館から離れたオリンピアという場所にあるスタジオでは、1640年頃に制作された日本製の螺鈿櫃（マゼラン・チェスト）の修理が行われている。この施設は、修理スタジオと収蔵施設を兼ねており、大英博物館所蔵品の収蔵施設としても使われている。

この修理は博物館に属する修理技術者と日本から参加する漆工品の修理技術者、および外部の2大学や1研究所に属する科学者が共同で研究しながら修理を進めている。修理自体を研究に位置づけて事業を行っていて、その経過はホームページでも公開されている。



24 建物外観



25 修理中のマゼラン・チェスト

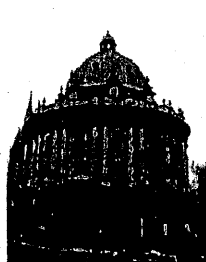
④ ボードリアン図書館（オックスフォード大学） Bodleian Library

オックスフォード大学の総合図書館である。独立した修復部門を有している。新しく作られたスタジオでは、天井から日光を採り入れたり、作業台にライトボックスを埋め込むなどの工夫が凝らされている。

また、ここでも、日本の装潢技術で用いる刷毛などの道具や和紙も用いられている。

図書館の中には小規模な展示室が併設されていて、ここで使用する展示具を作製する専門の部署もある。

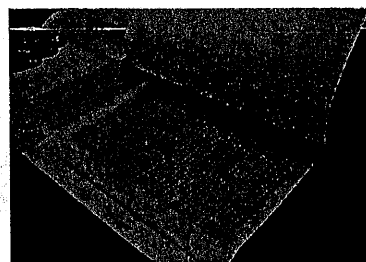
なお、オックスフォードではこのほかアッシュモレアン博物館の修復施設を視察した。



26 建物外観



27 新スタジオ



28 一枚物の安全な収納

⑤ ノーザンブリア大学 (ニューキャッスル・アポン・タイン)

Northumbria University (Newcastle upon Tyne)

ノーザンブリア大学は英国では数校しかない保存修復の専門課程を備えた大学で、博士課程まで学ぶことができる。

紙文化財や油彩画の修理のほか、予防的な保存を教える専門の教官もおられる。修理の実技のほか、科学や美術、美術史なども教えている。

実技を行うための修理スタジオや顕微鏡などの検査機器を備えた実験室もある。実技の講義はおもに修士課程から始まる。実技に用いる修理対象の文化財は、教会などさまざまな所有者からの希望があり、とぎれることは無いそうである。

紙文化財の修復では、やはり日本の装潢技術に用いる刷毛などの道具も使われている。

また、ここではピーターラビットの原画も修理が進められていた。

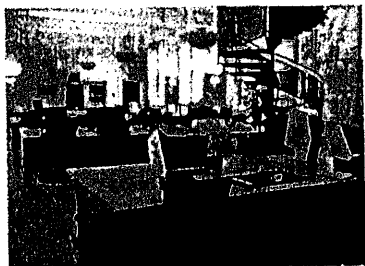
⑥ ナショナル・アーカイブ・オブ・スコットランド (エジンバラ)

The National Archives of Scotland (Edinburgh)

スコットランドの国立公文書館であり、修理施設は本館とは離れた場所に新しく建てられた建物に入っている。本館はエジンバラ駅の向かいという便利な場所にあり、さまざまな公文書の閲覧対応が行われている。近年では、市民のルーツ探し調査のための閲覧が増えているそうである。

修理施設のある建物は郊外に新設されたもので、閲覧希望のあった公文書

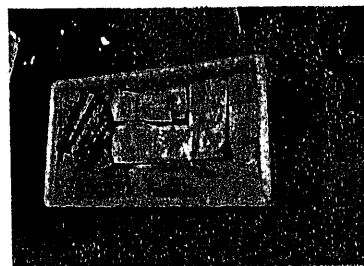
のうち、傷んでいて閲覧に耐えないものが次々と送られてくる。さまざまな形態のものがあり、対応は容易でないようである。



29 閲覧室



30 修理スタジオ



31 修理前の公文書

(4) 研修成果の活用計画

九州国立博物館での保存修理事業において、研修において得られた知見を 実践に活用していく。たとえば、修理過程の記録作成や記録の保存、公開、および文化財修理をテーマとした展示などに活かしていくことができる。

また、紀要にレポートを掲載したり、各種研修会などで、その成果を広く公表していくこととする。